

解剖医1人だけ 手回らず

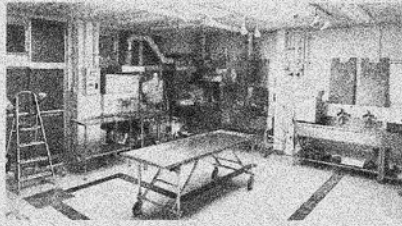
早朝・夜間も対応 乏しい志望者

なせ亡くなったのか、犯罪に巻き込まれていないのか。解剖は死因究明の最も有効な手段だが、解剖医や予算の不足、遺族の抵抗感などから解剖されないことが多い。一方で画像診断で死因に迫る取り組みが広まっている。▼1面参照

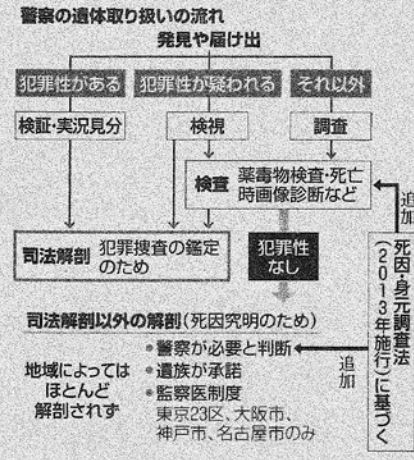
「解剖されていないければ、本当の死因はわからなかった。石川県の大王、大皇正晴さん(68)は、長男一也さん(当時40)を失った当時をこう振り返る。

2016年12月、県内の精神科病院から自宅に「一也さんが亡くなりました」と電話があった。一也さんは25歳のころ統合失調症と診断され、2週間前から入院していた。

病院は正晴さんに、死因は心不全が考えられると説明。だが、検査のために一也さんの遺体に移された別の病院で、家族が不審に思っ



千葉大医学部の建物の地下にある解剖室。千葉市



広がる「画像診断」

解剖数に限りがある中、CTなどで死因を調べる死亡時画像診断(AI)が広がっている。警察庁によると、14年の9千件が18年には1万4千件に増えた。

AI認定診療放射線技師の資格を持つ飯田訓司さん(43)は17年12月、静岡県伊豆市に住む兄(当時47)のAIに携わった。兄は自宅

に運ばれたが、血液検査やCT画像で死因はわからなかった。警察からは解剖するには浜松市内の大学に運ぶ必要がある、実施は6日後になると説明を受けた。

「解剖の必要性は理解するが、6日間も離ればなれになるのは忍びない」。そこで、兄を診た救急医と改めてCT画像を確認すると、心臓が少し大きくなっ

てきた血の塊が肺の動脈を詰まらせ、同じ姿勢で長時間いると起きやすい。後になって、一也さんは入院中に身体を拘束されていたことが発覚した。正晴さんらは、不適切な身体拘束で一也さんが亡くなったとして、病院を経営する社会福祉法人に対し、民事訴訟を起している。

死因究明の解剖は、事故や犯罪の見逃しを防ぐ役割もある。警察庁の研究會が11年にまとめた報告書によると、98、10年に発覚した犯罪見逃し事案は43件で、22件は死因を誤っていた。大半は解剖をすれば防げた

とみられ、警察が扱う遺体の解剖率は20%に引き上げることが提言。13年に死因・身元調査法(調査法)による解剖の制度が始まった。だが、昨年の解剖率は司法解剖や調査法の解剖などを合わせ全国平均で12%。

「解剖の質を担保するには50体が限界。新しい制度ができては解剖医が1人では変わらない」と、西日本の大学の法医学教授は指摘する。この県も自身1人だけだ。「警察も無理は言えない」と思っているようだ。事件性が拭きできない難しい症例だけをもってくる。一方、同じく解剖医が1

人だけの和歌山県の昨年の解剖数は202体。解剖率は13%で全国平均を上回る。和歌山県立医大の近藤稔和教授(法医学)は1日3、4体解剖することもある。「何でも受ける姿勢だと警察からの依頼も増え、解剖率は高まる」と話す。ただ、早朝、夜間も対応し、長い休みは取りづらい。また、法医学教室は他の分野の医師と比べて収入が低く、学生が集まりにくい面もある。西日本の大学教授は「臨床医はつづしがきき外の病院で働ける。地方の大学は地域医療を担う医師の育成を優先しており、医学生は法医学を志望しない」と話す。

解剖率が低い地域では、より慎重な捜査も求められる。警察庁の担当者は「解剖すればはつきりわかるが、周辺捜査に力を入るかで、解剖の必要性も変わる」と話す。

「解剖されていないければ、本当の死因はわからなかった。石川県の大王、大皇正晴さん(68)は、長男一也さん(当時40)を失った当時をこう振り返る。2016年12月、県内の精神科病院から自宅に「一也さんが亡くなりました」と電話があった。一也さんは25歳のころ統合失調症と診断され、2週間前から入院していた。病院は正晴さんに、死因は心不全が考えられると説明。だが、検査のために一也さんの遺体に移された別の病院で、家族が不審に思っ

てきた血の塊が肺の動脈を詰まらせ、同じ姿勢で長時間いると起きやすい。後になって、一也さんは入院中に身体を拘束されていたことが発覚した。正晴さんらは、不適切な身体拘束で一也さんが亡くなったとして、病院を経営する社会福祉法人に対し、民事訴訟を起している。

死因究明の解剖は、事故や犯罪の見逃しを防ぐ役割もある。警察庁の研究會が11年にまとめた報告書によると、98、10年に発覚した犯罪見逃し事案は43件で、22件は死因を誤っていた。大半は解剖をすれば防げた

9/8 (日)

享月 日 葉千 星月

(阿部彰夫、土肥修二)